

## 東北再生可能エネルギー研究会設立趣旨

温室効果ガスの排出量削減の動きが加速し、電力の半分以上を再生可能エネルギーと原子力で供給する目標が示されていましたが、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により福島第 1 原子力発電所において大規模な放射能漏れ事故が起こり、にわかに脱原発、再生可能エネルギー推進の機運が高まってきました。

再生可能エネルギーとは、

- 1 自然界で起こっている現象から取り出すことができ、一度利用しても再生可能な、枯渇することのないエネルギー資源。
- 2 利用する以上の速度で自然に再生するため、将来も持続的な利用が可能なエネルギー源。
- 3 自然環境の中で何度でも繰り返し起きている現象から取り出すエネルギーの総称。

とされており、太陽光、風力、波力、水力、地熱、バイオマスなどのエネルギーがこれらに該当します。

風力や太陽光など大規模利用が期待される再生可能エネルギーもありますが、地域に還元できる資源としては、今後、小規模で地域分散型の再生可能エネルギーの利活用が非常に重要になると予想されます。

しかし、これらのエネルギーは、地域により適否があり、また、費用対効果の面から活用する場合には事前調査や事前研究が必須となります。

そこで、産総研並びに地域の公設試が積極的に地域分散型エネルギーの開発や利用に取り組み、最終的に地方で自立した再生可能エネルギーを安定的に利活用することを目的に、東北再生可能エネルギー研究会を設立いたしました。

本研究会では、講演会や意見交換会を通して、企業の皆様と産総研並びに東北の公設試が共通する課題を抽出し、共同研究などを通して、東北地域での再生可能エネルギーの利活用と地域の活性化を図りたいと考えております。

再生可能エネルギーの利用や開発に関心のある方々の積極的な参加をお待ちいたしております。